

何らかの事情で手放され、殺処分されてしまう

たくさんの犬や猫たちがいます。

しかし、犬だけに限ってみれば、

その数はここ10年で、

3分の1近くにまで減少してきました。

いつかはこれを無くすために、

私たちにできることを考えてみませんか？

このハンドブックが、

そのためのヒントになりますように。

愛犬のために、私も健康に留意しなければ。

飼い主に先立たれたら、このコがかわいそうですものね。

富司純子さん



子どもの頃から動物好きで、犬や猫に囲まれていたという富司純子さん。現在はゴールデン・レトリバーの坊太夫くん(3歳)と2匹の猫たちが家族の一員です。

「朝は毎日、5時頃になると『お散歩!』って私を起こします。近所の公園に30分から1時間くらい行きまして、帰宅後にご飯です。食事は手作りにしているんですよ。毎回作るのは大変なので、1度に何日分かを作って冷凍しています。最初に迎えた3頭の犬のうち1頭は17歳まで生きましたが、次に来たコは、9年目に乳がんで亡くなってしまっ……。その時の悲しさから(もう飼うのはやめよう)と思っただけですが、大型犬のいない生活はどうにも寂しくて、坊太夫を迎えることになったんです。ですから、坊ちゃんにはできるだけ長生きしてほしい。それだけが望みです。でもそのためには、私も健康でなくてはいけませんね。飼い主に先立たれた犬はかわいそうですもの」